

歌舞伎座と新宿御苑

右城 猛

まえがき

30年ほど前から懇意にしてもらっている小西洋佑社長より、「歌舞伎座さよなら公演の4月10日のチケットが入手できたので見に来ませんか、是非見て下さい」と声をかけて頂いた。

歌舞伎は国の「重要無形文化財」。ユネスコの「世界無形文化遺産」にもなっている。一度は本物を見たいと思っていたが、これまでその機会に恵まれないままであった。

小平市に住んでいる家内の両親や墨田区にいる娘夫婦に会うのを兼ねて、4月10日に一泊二日で家内と東京に行ってきた。

ランドライダー

歌舞伎座に向かう途中、日産銀座ギャラリーに立ち寄る。ゼロエミッションのコンパクト電気自動車「ランドライダー」が展示されていた。将来のコンセプト車として製造されたもので販売はしていないとのこと。前後一列の二人乗りで、コーナリングのときには車体がバイクのように傾く。

ケバケバしい服を着たマナーの悪いコリアンとおぼしきグループも見学していた。



日産の未来のコンセプト車「ランドライダー」

歌舞伎座

初代の歌舞伎座が創建されたのは明治22年。三代目が昭和20年の戦火で消失したことから、四代目となる現在の歌舞伎座が昭和26年に再建され、以来60年が経過している。

新しく建て替えるため、昨年1月から「さよなら公演」が行われている。それも4月30日までである。



10時20分には、開場を待つ観客が銀座晴海通りの歩道を埋め尽くしていた。



歌舞伎座の入口



歌舞伎座の入口では、「歌舞伎座さよなら公演，平成 22 年 4 月興行まで，あと 21 日，2010 年 4 月 10 日 10 時 27 分 05 秒」と表示された案内板が置かれ，カウントダウンがされていた。



10 時 30 分に開場。イヤホンガイドを借りて 2 階から中に入る。私たちの席は，1 階 12 列 9 番と 10 番。舞台にも花道にも近い絶好の場所。



公演中はカメラやビデオによる撮影は禁止であるが，幕が開くまでの間は撮影自由。



鳳凰の紋が描かれた提灯。

歌舞伎座では，毎日，第一部，第二部，第三部が上演されている。私たちは午前 11 時からの第一部を観た。演目と俳優は下記の通りである。

さよなら公演 第一部

上演時間	演目	俳優
11:00 ～ 11:20	御名残木挽 闇争	三津五郎，芝雀，染五郎，菊之助， 海老蔵，獅子童，勘太郎，七之助， 三津右衛門，三津之助他
15 分	幕 間	
11:35 ～ 1:01	一谷嫩軍記 熊谷陣屋	吉右衛門，富十郎，魁春，由次郎， 歌昇，梅玉，藤十郎他
30 分	幕 間	
1:31 ～2:25	連獅子	勘三郎，勘太郎，七之助，橋之助， 扇雀

「御名残木挽闇争」(おなごりこびきのだなまり)は，曾我兄弟の仇討ちとして有名な「対面」の筋を組み込んだ「闇争」。「闇争」とは，暗闇の中で大勢の人が無言で巻物や剣などの宝物をさぐり合う場面のこと。歌舞伎ならの様式美を見せると共に，俳優の顔見せを兼ねている。

現歌舞伎座の名残を惜しみながら，3 年後の春に完成する新しい歌舞伎座への期待を込めた一幕。

「一谷嫩軍記熊谷陣屋」(いちのたにふたばぐんきくまがいじんや)は，平家物語の熊谷直実(くまがいなおさね)と平敦盛(たいらのあつもり)に題材をとった狂言。

一の谷の戦いで源氏側の武将・熊谷直実は，恩

人の息子の平敦盛を助け、その代わりに自分の息子・小次郎の首を刎ねて源義経に差し出すという、日本人が昔から好む義理と人情の物語。

「連獅子」は、前ジテ・宗論・後ジテよりなっている。前ジテは、親獅子役の勘三郎と子獅子役の勘太郎、七之助による狂言舞踏。宗論は間狂言のことで、浄土宗の一遍上人(扇雀)と法華宗の日蓮上人(橋之助)が言い争う物語。最後の後ジテでは、白毛を付けた親獅子の精(勘三郎)と赤毛を付けた子獅子の精(勘太郎・七之助)による舞踏。長い毛を左右に振る「髪洗い」、毛を回転させる「巴」、舞台に叩きつける「菖蒲叩き」は圧巻。お見事。

歌舞伎は、世界に誇ることができる日本の伝統芸術であることを改めて実感させられた。

新宿御苑の花見



桜が見頃という娘の薦めで新宿御苑に行く。銀座から丸の内線で新宿御苑前に行き、新宿大木戸門から入場。満開まではまだ少し早い八重桜。染井吉野の葉桜になりつつあった



朋男君と和恵



見頃はアメリカ



花びらが白いのは大島桜



しだれ桜



フランス庭園のプラタナス並木

ホテルマリナーズコート東京

東京の夜景を見ながら食事を楽しみたいという私の願望に応え、和恵がホテルマリナーズコート東京の最上階レストラン「ル・アール」を予約してくれていた。

ホテルは、都営大江戸線の勝ちどき駅から徒歩で約 10 分の距離ということであったが、地下鉄で歩き、新宿御苑を散策していたので結構疲れた。



東京湾晴海埠頭にあるマリナーズコート東京



ホテルマリナーズコート東京の正面玄関



最上階レストラン ル・アール



レストランから眺めた夜景。お台場やレインボーブリッジを眼下に眺めながら食事。

東京スカイツリー



朋男と和恵が住んでいるマンションから眺めた東京スカイツリー。



東武鉄道の押上駅から眺めた東京スカイツリー。和恵と自転車でスカイツリーの近くまで行くと、見物客で賑わっていた。現在のタワーの高さは 338m、最終的には 634m になる。



京成橋から眺めたスカイツリー。

江戸東京博物館

江戸東京博物館は、JR 総武線の両国駅の北側にある。西側には両国国技館がある。常設展示室は、「江戸ゾーン」「東京ゾーン」「第2企画展示室」で構成され、浮世絵や絵巻、着物、古地図など約2,500点、大型模型約50点が展示されている。当時の人びとが実際に使っていた実物資料も豊富に展示しており、江戸東京の都市と文化、そこに暮らす人びとの生活を楽しみながら学ぶことができる仕組みになっている。

娘夫婦のマンションが近くにあり、一度は見学したいと考えていた。家内の両親がいる小平市に行く約束の時間まで余裕があったので、常設展示室を見学することにした。



清澄通りの方から眺めた江戸東京博物館



清澄通りから一階玄関入口に向かって歩くと、桜が満開の庭に徳川家康の銅像が立っている。東京湾の方角を向いた亀の上に、江戸幕府が15代まで続いたことに因み15段の石の台座が載り、その上に陣羽織姿で江戸城の方角を向いて家康像が立ち、伸ばした左手には鷹がのっている。



江戸時代の上水施設の出土状況。広大な屋敷地の中を上水道が縦横に巡らされていた。



掘り出された上水道施設。



江戸の纏(まとい)



江戸初期における日本橋北詰付近の町人地を30分の1の模型で復元している。



1855年(安政2年)の大地震による火事略図



隅田川に架かる両国橋の30分の1の模型。天保の改革前の盛り場の姿を1500体の人形を配置して当時の風景を再現している。



江戸歌舞伎の代表的な演目「助六」の舞台。ここに展示されている衣裳や小道具は、現在の舞台で使われているものと同じもの。

江戸東京博物館は、江戸時代や明治以降の東京の様子を知る上でとても勉強になる。東京都の小学校では6年生に江戸東京博物館を必ず見学させているそうである。

展示物の点数が多いので、常設展示室をざっと観て回っただけで2時間を費やした。

(2010年4月14日記)